

研究課題名：火災時における自力避難困難者の安全確保に関する研究 (平成 28 年 4 月～平成 33 年 3 月)	評価の集計結果（人）			合計点	総合評価 (平均点)
	A	B	C	5	A (0.62)
	5	3	0		

評価	委員コメント	コメントに対する回答
1 B	<p>火災等の状況と、自力避難困難者の状況の組み合わせによっては、全員を助けるのが難しい場面もあると考えられる。</p> <p>この観点において、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 現状の特養ホームの安全性についてのランク付けとその公表</li> <li>2) 実際に火災が起こった際の、避難補助の優先順位付けの方法</li> <li>3) 火災の進行状況と避難打ち切りとの関係</li> </ol> <p>等について、明確にしてゆくことを、目的に明示すべきと考える。</p>	<p>安全性に関しては、重大な法令違反があった場合、現在でも各消防本部より公表がなされております。</p> <p>消防庁においても、一時避難場所の運用に関しても検討しているところであり、情報を共有し、目標とする「避難方法、避難計画の提案」に介助者の安全管理まで含めて盛り込んで行けるかどうかを検討いたします。</p>
2 A	<p>火事場の馬鹿力という言葉もある反面、腰を抜かして動けなくなるという話も良く耳にします。</p> <p>子ども達には日頃からの訓練で対応できることも下手に年を重ねた大人にはパニックに陥る率も高いように思います。</p> <p>非常事態発生の際の情報の伝え方にも一工夫必要なこともあるのではと思います。こうした面に関しても研究の対象としていただきたいと考えます。</p> <p>この研究は単に、身体的な避難困難者に限られるものではなく広く応用できるものにしていただきたいと思います。</p> <p>状況を自身で把握できない方でも不安や恐怖はむしろ大きく感じるようです。下手な器具の開発は介助者を疲労させるだけになってしまう恐れもあるかと想います。介助、誘導する人が少ないことを前提に呉々もよりよいものを考え出して下さることを期待します。</p>	<p>本研究をご評価いただきありがとうございます。</p> <p>頂いたご意見について、必要に応じて取り入れて行けるよう検討いたします。</p>

	評価	委員コメント	コメントに対する回答
3	A	<p>テーマはAです。企画内容はBです。</p> <p>研究課題そのものは喫緊の課題であり、すぐに開始することをお願いしたい。</p> <p>以下企画の問題点</p> <p>タイトルにおいて自力避難困難者と規定しているにもかかわらず、自力避難の能力について延々と調査しようとしている方法論に疑問を呈する。</p> <p>どのようにして、他者（非番の従業員・消防機関・周辺住民）の避難援助活動を利用・強化するかに力点を置くべきと考える。また、救出困難の時点を判断する（あきらめる）要素を整理すべきである。「自立避難困難者救出トリアージ」!! これは仮に助けられなかった場合の援助活動者の PTSD を軽減すると思われます。</p> <p>サブテーマの(1)は4年間も費やすべきでない。研究の背景として、研究に取り掛かる前に整理すべきである。</p> <p>(4)に研究の重点を置くべきである。その結果どのような補助器具が有用か位置づけることができると思われる。</p> <p>既存の高齢者・障がい者施設の火災事例において、避難開始時間を実態把握することも有意義な方法だと思う。</p>	<p>成果については、5年終了時にまとめて出すのではなく、(1)～(4)の内容をデータを共有しながら連動して行い、年毎に蓄積されたデータから明らかになることを逐次還元していくことを考えております（研究計画の線表に反映）。</p> <p>過去に起きた同種施設の事例などを参考にして進めてまいります。</p>
4	A	<p>増え続ける高齢者および要援助幼児等、自力避難困難者の火災時における安全確保は、時宜を得た重要な研究課題であり、消研においても積極的に推進すべきである。 本研究をご評価いただきありがとうございます。</p> <p>有用な結果が出せるよう勤めてまいります。</p>	<p>本研究をご評価いただきありがとうございます。</p> <p>有用な結果が出せるよう勤めてまいります。</p>
5	B	<p>高齢者、障がい者の災害時安全上の課題は多岐にわたるが、本課題は高齢者の就寝施設を対象とするものと理解できる。この種の施設は、高齢化対策として10数年前から増加し続け、その間、多大な犠牲者を出す火災も繰り返されているが、高齢化が今後、更に進む以上、施設の必要性は今後も高まるばかりである。高齢化すれば、火災や事故を起こし易くなる一方、避難や消火</p>	<p>施設に対する対応は行政的に進んできているところではありますが、各個別施設においてより適切な方法がとれるよう、既存の調査結果を基礎として、補完すべき内容について詰めてゆき、消防庁予防課とも十分協議の上、施策に反映できるような内容にできるよう検討いたします。</p>

	評価	委員コメント	コメントに対する回答
		<p>活動等に困難が生じるから高齢者施設では適切な火災対策を行わなければ大規模火災が増加する可能性が高いことは容易に想像がつくことなのだから、被害軽減のための政策整備は本来、急務であった。しかし、本課題の研究目的や研究計画を見ると、自力避難困難者個々の詳細評価を可能にするという夢のような理想のもとに既往研究の不十分さを批判して予測精度向上を目指すようなことばかりが説明されており、有効な政策をいつまでに構築すべきかという関心が欠けているように思われる。参照されている日本建築学会特別調査委員会の活動自体、研究成果を社会的活用に結びつけることを目的とする特別調査委員会制度によって行われたのであり、社会的には、すでに、研究の精緻化よりも、その成果の社会還元が求められていることをよく考えてほしい。高齢者施設では、自力避難できない入居者の介助避難の訓練すら十分に行なわれていない現状がある。そのようなことに対して何も触れられていないが、高齢者施設の現状をどれだけ認識したうえでの研究課題なのであろうか。避難能力の研究等は、大学等に取り組みそうな専門家は存在するのだから、タイムリーな政策化や消防行政指導、技術開発等に向けて、漏れのないような研究を推進してほしい。</p>	
6	B	<p>重要な研究課題であり、他省庁、他研究機関等との連携、協力体制が必要ではないか。</p> <p>災害弱者対策、高齢化社会の進展を考慮すると、5年間という期間は少々悠長に思える。研究資源を戦略的に配分することで研究を加速し、早い時期に成果を還元できるようにすることはできないか。</p> <p>研究内容は「A」評価であるが、研究スケジュールに一考の余地があり、「B」評価とした。</p>	<p>成果については、5年終了時にまとめて出すものではなく、(1)～(4)の内容をデータを共有しながら連動して行い、年毎に蓄積されたデータから明らかになることを逐次還元していくことを考えております（研究計画の線表に反映）。他機関とも協力体制をもって進められるよう共同研究先を検討いたします。</p>

	評価	委員コメント	コメントに対する回答
7	A	<p>1) 必要性 社会的・経済的（実用性等）は高く、被害低減に資すると考えられる。安全・安心な生活を実現するために必要な研究と判断。</p> <p>2) 効率性 各項目の全てが最終年度に結実するのは若干不安（調査機関がもう少し短くても良いのでは）</p> <p>3) 有効性 社会への貢献大と判断</p> <p>4) その他 入院者の多い病院はどう対応しているのか。参考となると思う。</p>	<p>本研究をご評価いただきありがとうございます。</p> <p>成果については、5年終了時にまとめて出すものではなく、(1)～(4)の内容をデータを共有しながら連動して行い、年毎に蓄積されたデータから明らかになることを逐次還元していくことを考えております（研究計画の線表に反映）。</p> <p>病院においては、人的体制や建物の基準などで福祉施設とは異なるところがありますが、これら違いを踏まえ考慮してまいります。</p>
8	A	<p>緊急時、自力避難困難者を安全に避難させるためには、何よりも大事なことは、施設そのものの安全性である。施設の耐震性や、防火性能が劣っていたら、研究テーマにあるどの様なソフト対策を講じても被災は免れないし、従来からの悲惨な惨事を繰り返すことになる。当研究によって、より安全で安心できる施設の建設に進むことを期待する。</p>	<p>本研究をご評価いただきありがとうございます。</p> <p>消防法等に定められた法令上の設備は、安全に対し非常に重要な役割をしていると考えております。人の動きから明らかにできることを、施設の安全性まで視野に入れた考察を加えられるよう検討いたします。</p>